

「資産運用コンサルティングのポイント Vol.43～ 分かりにくい「投信目論見書」が有用になる 4つのポイント -前篇->」



株式会社 ZUU の押田裕太です。証券会社などで投資信託を買う際、投資家を読むのを義務づけられているのが「目論見書（もくろみしょ）」、つまりその投信の説明書です。何に投資しているか、どのように運用しているか、リスクは何か、手数料や税金はいくらかなど、重要なことが網羅されています。

しかし、投資信託協会のアンケートによると、投資信託の目論見書の閲読率は 42.3%にとどまっています。その理由としては「内容が多過ぎる」「わかりにくい」などが挙げられています。

確かに、法的厳密さを保つための言い回しや、読めないほど小さな文字の部分も少なくありません。それでも、自分の投資についてはしっかりと理解しておきたいものです。ここでは目論見書を敬遠している方向けに、その読み方のポイントをお伝えしましょう。

■目論見書に出てくる「4つの項目」に注目すれば良い

どの投信でも、目論見書に記載される項目と順序はすべて統一されています。その内容は「ファンドの目的・特色」「投資のリスク」「運用実績」「手続・手数料等」の4つです。

自分で購入したものなら、「ファンドの目的・特色」は流し読み程度で問題ないでしょう。要は、この投信は何々に投資し、利益を上げるために運用担当者は一生懸命やっていると書いてあるだけです。他の3つについて詳しくみていきましょう。

■「運用実績」をまずは確認

記載順序は「投資リスク」の次に「運用実績」がきますが、まず見たいのが運用実績です。ここでは肝心要の騰落率や、設定来の基準価額（投信価格）、純資産額（投資残高）の推移など、ファンドの運用状況がわかります。株式型投信であれば、主要保有銘柄や業種別の投資比率も載っているのです。

ただ、目論見書は半年に1回の発行なので直近の状況はつかみづらくなっています。それを知りたければ、ネット証券や運用会社のホームページでチャートや月報（または運用報告書、

マンスリーレポートなど）をみましょう。今年のように為替レートや株価が大きく変動する局面ではとくにチェックしておきたいものです。

これだけでは運用成績の優劣がわからないので、できれば他の同様なファンドと比較したいものです。常に成績が悪ければ、違うファンドに乗り換えた方がよいこともあります。ただ、その場合も半年、1年の短期でなく、設定来など長期で比べることが重要です。将来的に良い実績が続く保証はありませんが、投信の運用では長期にわたり担当者が変わらないため、重要な判断材料になるのです。

<著者プロフィール>

押田裕太

大和証券にて中小企業経営者をはじめとする富裕層向けに資産コンサルティングをおこなう。その後、株式会社 ZUU に入社。入社後は、現在配信先含めて月間 2000 万アクセスを超える投資家向け金融・経済メディア ZUU online の運営に携わる。金融担当として、日々アナリストなどの金融専門家への取材等を通じ、個人投資家に役立つ情報を提供。Yahoo!ファイナンス 投資の達人としても執筆をおこなっている。

参考

ZUU online : <http://zuuonline.com/>

ZUU Advisors-Support : <http://support.zuuadvisors.com/>参考 : ZUU Advisors-Support :

<http://support.zuuadvisors.com/>

: ZUU online : <http://zuuonline.com/>

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP 実務研究会事務局では、FP 実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP 実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 企画開発部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488